

◎戦後中国の歴史 a. 新中国の成立と中ソ論争

- ①[1 **1949**]年 中華人民共和国成立
ソ連との間で[2 **中ソ友好同盟相互援助**]条約締結＝[3**東側**]陣営に参加
- 1950 [4 **朝鮮**]戦争発生→人民義勇軍の派遣＝アメリカの中国敵視・台湾擁護政策へ
- ②中国、社会主義路線の実施
 - (1)財閥所有の企業の国営化→ブルジョワ階級への攻撃強化
 - (2)1950[5 **土地改革**]法＝地主からの土地没収と分配(中国の地主支配の伝統的体制を破壊)
 - (3)1953～ 第一次5カ年計画＝重工業化を推進、[6 **ソ連**]の援助をうける
 - (4)[7**百花齊放・百家争鳴**]運動で言論の活発化を図る→知識人の共産党批判続出→思想弾圧へ
- ③1958 第二次5カ年計画＝[8 **大躍進**]政策
強引な農業の集団化を実施＝[9 **人民公社**]設立へ、原始的な製鉄など
→大量(1500万?)の餓死者をだすなど失敗に終わる
- ④1959[10 **チベット**]自治区で反中国運動発生→[11 **ダライ=ラマ**]、国外に亡命
→[12 **インド**]との間の国境紛争発生
非同盟中立路線のパートナー
- ⑤[13 **中ソ論争→対立**]の発生(1963以降、公開論争に)
ソ連の[14 **スターリン**]批判・[15 **平和共存**]路線を修正主義と強く批判

[16 **1949**]年、成立した中華人民共和国は、翌年[17 **土地改革**]法をだし地主からの土地没収と分配を実施し、1000年以上にわたる地主支配の社会構造を解消した。企業の国営化など急進的な[18 **社会主義**]化の改革を進め、1953年[19 **ソ連**]の援助を得て農業の集団化や重工業化など第一次5カ年計画を開始した。

またソ連との間で[20 **中ソ友好同盟相互援助条約**]を結び東側陣営に参加、翌1950年にはじまった[21 **朝鮮**]戦争に多数の人民義勇軍を派遣、アメリカなどと交戦、アメリカをはじめとする西側陣営と激しく対立するようになった。毛沢東は当初、[22**百花齊放・百家争鳴**]を唱え知識人たちに積極的な発言を求めたが、その批判が共産党へ向かうようになると、弾圧を加えた。

毛沢東はより急進的な社会主義化をめざし、1958年から[23**大躍進**]政策ともよばれた第二次5カ年計画を開始、農村での強引な[24 **集団化**]をすすめて[25 **人民公社**]を設立、大衆動員による原始的な製鉄の奨励など急進的な政策を実施したが大失敗に終わり、おりからの飢饉と相まって1500万人に達するといわれる餓死者をだした。

1959年[26 **チベット**]で暴動が発生、これをきっかけに[27**インド**]との国境紛争も発生した。また同盟国ソ連との対立が表面化、[28**中ソ**]論争が発生した。

b. 文化大革命と米中国交正常化

- ①1959[29 **劉少奇**](国家主席)・[30 **鄧小平**]ら実権派の台頭、毛沢東は党主席のみ
「白い猫でも黒い猫でもネズミを捕る猫はよい猫だ」＝経済発展を重視

- ②[31 **文化大革命**]の発生(1965～69ごろ ～76)
毛沢東ら権力奪還をめざし、[32 **劉少奇**]・鄧小平らを修正主義者と批判→失脚
- [33 **紅衛兵**]を利用して、党幹部・企業経営者・知識人を弾圧
「造反有理・革命無罪」をとき既存の秩序破壊を援助→社会秩序と経済の崩壊、暴力の横行＝社会混乱
↓
軍実力者の[34 **林彪**]を後継者に指名→1971クーデターを企て失敗、逃亡途中墜落死？

大躍進の失敗により毛沢東はいったん第一線から退き、かわって[35 **劉少奇**](国家主席)と[36 **鄧小平**]らが台頭、経済の立て直しを中心に改革を進めた。これにたいし権力を奪われたと感じた毛沢東は1966年国民に[37 **文化大革命**]を呼びかけ彼らの打倒を求めた。これをきっかけに[38 **紅衛兵**]と呼ばれた若者を中心とする勢力が、党幹部・企業経営者・知識人などを「走資派」「反革命」などとして攻撃、中国は大混乱に陥り、経済も破綻状態となった。こうして劉や鄧らは失脚、いったんは軍実力者[39 **林彪**]が後継者に指名されたが1971年クーデターに失敗墜落死した。

- ③1969 中ソ国境論争の激化 ([40 **ダマンスキー島(珍宝島)**]事件)→ソ連への不安増大
- ④中国の[41 **アメリカ**]接近
1971 米、[42 **キッシンジャー**]補佐官の訪中→1971 中国、[43 **国連**]代表権承認
1972 米、[44 **ニクソン**]大統領の中国訪問→1979 米中国交正常化
- ⑤1972 日本、[45 **田中角栄**]首相訪中＝国交正常化→1978[46 **日中平和友好**]条約締結

中国は、ソ連[47 **フルシチョフ**]第一書記が[48**スターリン**]批判を行い、国際政策において[49**平和共存**]政策を打ち出したことを修正主義と激しく非難、[50 **中ソ論争**]が発生した。(1963以降、公開論争に)。とくに大躍進をめぐる大飢饉のさなかにソ連が技術者を引き上げたことは両国の関係をいっそう悪化させていた。また文化大革命中、ソ連への批判も高まっていった。1969年、ウスリー川の中州[51 **ダマンスキー(珍宝)**]島で軍事衝突が発生すると、中国指導者はソ連との戦争の恐怖を感じるようになった。こうしたなか、1971年米のキッシンジャー補佐官が突如訪中、翌[52 **1972**]年には米の[53 **ニクソン**]大統領が中国訪問を行った。またアメリカなどの妨害で実現しなかった[54 **中国国連**]代表権も1971年に承認された。これをうけ、1972年には日本の[55 **田中**]首相が訪中し日中国交正常化も実現、1978年には福田赳夫首相のもとで日中平和友好条約が締結された。

c.改革開放路線の展開

- ①文化大革命による経済や社会の混乱の深刻化
→周恩来の庇護のもとに[56 **鄧小平**]ら復権、文革推進派(紅青ら四人組)らと対立
- ②[57 **1976**]年. 4 周恩来死亡→第一次天安門事件で鄧小平再失脚
9 [58 **毛沢東**]死亡、紅青ら四人組を逮捕
- ③1977 [59 **華国鋒**]、文化大革命の終了を宣言、[60 **四つの現代化**]のスローガンを掲げる
→1981失脚、
農業・工業・国防・科学技術